

さぬき市立神前小学校

平成 22 年度は、子どもたちの自己有用感を高めるために縦割り班を中心とした異学年交流活動に取り組んでいます。

実践事例（関連項目：教育活動プラン⑤-2）

より生活に生かせる全校集会への取組

目的

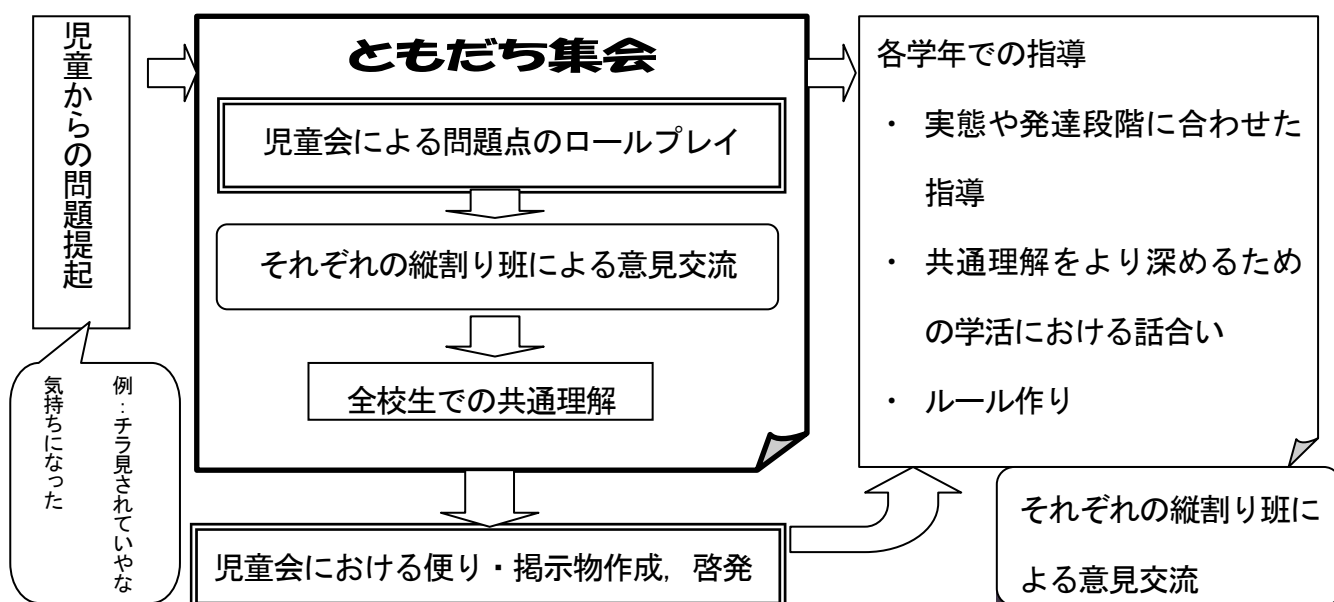
全校集会の運営を工夫することで、より生活に生かせる話し合い活動を目指し、ソーシャルスキルを高めます。

内容

● 縦割り班による協議と共通理解

縦割り班での話し合い活動を取り入れ、違った立場での考えを聞くとともに全校生の意見として集約させます。

● 全校集会のフローチャート



成果

縦割り班で相談することにより、違う立場の考えを取り入れるとともに、意見を集約することで「自分たちで考えたこと」という意識が芽生え、規範意識や自己有用感が高まりました。



6年生が異学年の校外学習をサポートする

目的

主体的に下級生にかかわる場を設定することで、リーダーとしての自覚と自己有用感をもたせます。

内容

● 活動の計画

サポートにつく学年の担任と6年生が打ち合わせを行い、校外学習におけるサポートの内容や遊びの内容について計画を立てます。

● サポートの実行

鉄道での移動の際には切符の購入をサポートしたり、列車の待ち時間の安全確保に関する声かけを行ったりしました。

また、昼食を一緒に食べたり、昼食後のレクリエーションの進行などをしたりしました。

切符の購入をサポートする



グループの下級生と一緒に昼食を食べる



成果

活動の計画段階から参加することで、6年生に目的意識が芽生えます。また、相手意識を持って計画・実行することで、思いやりの気持ちと自己肯定感が芽生えます。

◆ 本校におけるその他の取組

- 「1年生とふれあう運動会」や清掃など、縦割り班で活動することで人とつながる喜びを味わわせています。